

「たい」が泳ぎ続ける学校づくり

－ キャリア教育の視点を生かした授業デザインを通して －

福島市立杉妻小学校 研修主任 教諭 横山 雄大

## 1 研究の趣旨

これからの21世紀は、社会の急激な変化に伴い、複雑化する諸課題への対応が求められ、変化が激しく先行き不透明な社会に移行しつつあるとされている。予測困難な社会において、子どもたち一人一人が「なりたい自分」に向けて夢や目標を実現させるためには、学ぶことの意義を実感し、自分らしさを大切にしながら未来を切り拓いていくための資質・能力を身に付けていく必要があると考える。そのため、本校では、キャリア教育の視点から教育活動の見直しを図っている。

昨年度は、キャリア教育について共通理解を図るとともに、キャリア教育の視点を生かした授業についての研修と実践を往還させることにより、身に付けさせたい資質・能力を育む授業デザインと、「深い学び」を具現する授業プランに関する有効な手立てを見だし、児童の主体性を引き出すとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実を目指した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、次の二つの視点から手立てを講ずれば、児童の主体性を引き出し、育成を目指す資質・能力が身に付いた「自ら学ぶ」子どもを育成することができるであろう。

## 2 研究の概要

### (1) 身に付けさせたい資質・能力を育む授業デザイン

各教科等の授業の中に、キャリア教育としての価値を見だし、身に付けさせたい資質・能力を明らかにすること、そして「構造的な板書」を授業改善のベースとして捉え、板書を吟味することで児童の資質・能力を育てていく授業をデザインしていくことができると考えた。

- ① 構造的な板書計画の作成（板書型指導案）
- ② 育みたい資質・能力等の明確化

### (2) 「深い学び」を具現する授業プラン

キャリア教育の視点から授業をデザインすることは、学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことと大きく重なる。そのため、課題との出会いとなる導入から終末に至るまで、児童一人一人が主体的に学ぶことができる授業をプランすることによって、身に付けさせたい資質・能力を育てていくことができると考えた。

- ① 課題との意図ある出会いの工夫
- ② 「読み解く力」を育む工夫
- ③ 学びや気づきを自覚させる工夫

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 育みたい資質・能力を明らかにしながら、板書型指導案の作成や授業実践を通して、各教科等におけるキャリア教育の在り方に気付くことができた。キャリア教育とは何か、教師自身が学び考えることができた。
- 児童の主体性を引き出す課題の設定に加え、本時や単元の学習活動の見通しを明らかにしたり、学習活動のゴールを示したりすることで、児童の「主体的な学び」の視点から授業改善を図ることができた。課題発見やその解決に向けた計画立案など、基礎的・汎用的能力「課題対応能力」の育成につながるものである。

### (2) 今後の課題

- キャリア教育の充実に向け、特別活動を「要」として、育成を目指す資質・能力について各教科等での学びをはじめ、学校の教育活動全体での取り組みを束ねていかなければならない。学ぶことへの価値や意義を児童が実感することができるように、教師がさらに意図的・意識的に指導していかなければならない。今年度、その研究と実践に取り組んでいる。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今後も継続して授業改善を図っていきたい。